

ご当地 自慢

南木曽ろくろ細工編

2

南木曽支署



南木曽ろくろ細工

長野県木曽郡南木曽町は、木曽谷の南端に位置する町です。険しい山々に囲まれた地形にも拘わらず古来から交通の要衝であり、中山道木曽十一宿の一つ妻籠宿があることでも知られています。南木曽ろくろ細工は、こうした歴史背景のもとに、いくつもの時代を経て町の伝統工芸品としてその技術が受け継がれ、経済産業大臣が指定する「伝統的工芸品」ともなっています。

ろくろ細工は、厚い板や丸太をろくろで回転させながらカンナで挽いて形を削

り出す伝統技術で、その作業の様子から「挽物（ひきもの）」とも呼ばれています。

南木曽地域では、中山道が多くの旅人で賑わう江戸時代から、木曽谷に育つケヤキ、トチ、センノキ、カツラ、ミズメなど木目の美しい広葉樹をろくろで挽き、木の国ならではの特産として盛んに造られてきました。



南木曽ろくろ祭り（手挽ろくろ実演）

手技を尽くし、材の良さを活かした品々は全国に知られ、白木の盆や椀を造って名古屋や大阪方面に取り引きされていきました。やがて「トクサ磨き」や「漆拭き」といった仕上げ加工を施し、その見事な完成品はさらに知られたるところとなり、現在のろくろ細工として連綿と受け継がれています。

南木曽のろくろ細工は、木目の美しさ

が際立っていて、自然の風合いと手触りの優しさが特徴です。おもな製品は茶びつ、茶盆、椀、広ぶたなどの生活道具から、さらには大きな円卓まで、流麗な曲線と艶やかな光沢が独特の優美さをかもし出しています。

ろくろを廻して木をくり抜き、丸い形の器を作る職人を「木地師」と呼びます。とりわけ類まれなる経験を積み、技と感性に秀でた木地師は（財）伝統的工芸品産業振興協会から「伝統工芸師」に認定され、芸術を究めながら後進の指導にあたっています。



木地師の作業風景

また、ろくろ細工に使用する樹木の育成や伝統文化の継承を目的に当南木曽支署管内の南蘭国有林において「南木曽伝統工芸の森」の協定を締結し、下刈や除



南木曽伝統工芸の森 整備の様子

伐作業の実施など将来の伝統工芸品の資材となるよう整備活動を進めています。

◆所在地

長野県木曽郡南木曽町吾妻漆畑

「木地師の里」

◆アクセス方法

「公共交通機関」

JR中央本線南木曽駅下車

町地域バス「保神線」約二十分

「自家用車」

中央自動車道中津川IC～国道十九

号・国道二百五十六号経由で約一時間

◆お問い合わせ

南木曽町観光協会

電話番号 〇二六四一五七一二〇〇一